

(43) まつ類

病害虫	防除法	参考事項
こぶ病	(耕種的・物理的防除) 1 カシワ、クヌギ、コナラ、ミズナラなど中間寄主を同じほ場に植えない。 2 1月～2月に病株を切り取り、処分に努める。	○ 幹、枝、露出根に大きいこぶを生じ、1～2月頃にあめ状の粘液が、4～5月に黄色粉がでる。
すす葉枯病	(耕種的・物理的防除) 1 表土の薄い畑や保水力の悪い畑に植付けない。 2 亜硫酸ガス濃度が高いほど発病しやすいので、大気汚染の甚だしい所では栽植しない。	○ 針葉の先から半分位が褐色に変色する。後に灰褐色に変わり病斑上に小黑粒点を多数生じる。 ○ マツの生長開始期前後の異常気象(特に多雨)が有力な誘因となる。
すす病	(耕種的・物理的防除) 1 通気不良な多湿地にでやすいので、このような場所での栽培を避ける。	○ 病原菌はカイガラムシの分泌排泄物に繁殖し、黒いカビをつける。
立枯病	・床土を消毒する(共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項を参照)。 (薬剤防除) 農薬登録情報【立枯病】・【苗立枯病】 1 チウラム80又はホーマイ水和剤(苗立枯病の登録)を粉衣し、は種する。 2 タチガレン液剤を苗床全面にかん注する(林木(苗木))。	○ 幼苗地際部がくびれて褐変し倒れる。坪枯状にでることが多い。発芽しないこともある。
葉ふるい病	(耕種的・物理的防除) 1 有機質不足地などに多いので、肥培管理をよくする。病葉は処分する。 2 広葉樹を下木にする(発病が少なくなる)。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 キノンドー水和剤40を散布する。	○ 春の病葉の一部又は全体が褐変落葉する。病葉にはだ円形、漆黒で中央に縦の裂け目をもった菌体が見える。
カイガラムシ類	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 マシン油乳剤(97%)によるカイガラムシ類の防除法 薬剤名 アタックオイル エアータック乳剤	○ カルホス乳剤は、薬害を生ずるので注意する。
マツカレハ(マツケムシ)	(耕種的・物理的防除) 1 秋遅くとも10月前半までに幹にわらなどを巻き(バンド誘殺)、越冬幼虫を集めて処分する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 加害初期にスミパイン乳剤を散布する。 2 幼虫発生前～幼虫発生期にアトラック液剤を樹幹注入する。	

病虫害	防除法	参考事項					
マツノマダラ カミキリ	(耕種的・物理的防除) 1 成虫は見つけ次第捕殺する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 生物防除 バイオリサ・マダラを成虫羽化脱出前に枯損木 1 m³あたり不織布製剤 2,500～10,000c m²設置し、ビニールシート等で被覆する。 2 成虫を対象に下記薬剤のいずれかを散布する。 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>エコワン3フロアブル</td></tr><tr><td>スミパイン乳剤</td></tr><tr><td>マツグリーン液剤2</td></tr><tr><td>モリエートSC</td></tr></table> 2 加害された伐倒木を林内空地に集積してキルパー40を散布し、直ちにビニールシート等で密閉し7日間以上くん蒸して内部の幼虫を死亡させる。	薬剤名	エコワン3フロアブル	スミパイン乳剤	マツグリーン液剤2	モリエートSC	○ 特に老木に被害が大きい。マツノマダラカミキリは枯損の原因となるマツノザイセンチュウを媒介する。
薬剤名							
エコワン3フロアブル							
スミパイン乳剤							
マツグリーン液剤2							
モリエートSC							
マツバノタマ バエ	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 4月中旬～5月の成虫が発生する時期に、スミパイン乳剤を散布する。	○ 年1世代、蛹越冬、成虫は4月中旬出現、針葉基部に産卵、幼虫もそこを食害し、だ円形にふくれ枯れる。					
マツノザイセ ンチュウ	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 マツノマダラカミキリ成虫の発生前に下記薬剤のいずれかを樹幹注入する。 <table><tr><th>薬剤名</th></tr><tr><td>グリーンガード・エイト</td></tr><tr><td>ショットワン・ツー液剤</td></tr><tr><td>マツガード</td></tr><tr><td>メガトップ液剤</td></tr></table>	薬剤名	グリーンガード・エイト	ショットワン・ツー液剤	マツガード	メガトップ液剤	
薬剤名							
グリーンガード・エイト							
ショットワン・ツー液剤							
マツガード							
メガトップ液剤							